

第4回 安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会

日時：令和6年11月19日（火）

午後5時30分から午後7時

会場：穂高公民館 講堂

次第

1 開 会

2 県教育委員会あいさつ

3 会議事項

- (1) 第3回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会まとめ
- (2) 池田工業高校同窓会からの公開質問状
- (3) 公開授業の報告
- (4) 新校の学びのイメージに係る意見交換

4 その他

次回の予定

【日時】 令和7年1月頃（予定）

【場所】 （調整中）

【内容】 学びのイメージ策定に向けた意見交換

5 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

(目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条令により設置された附属機関ではないものとする。

(会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関する事
- (2) 校地・施設・設備等に関する事
- (3) 管理運営等に関する事
- (4) 教育内容等に関する事
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関する事

(構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

(開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会構成員名簿

令和6年度7月以降

（敬称略）

	区分	氏名（座長◎）	所属等	役職等
1	自治体	中山 栄樹	安曇野市	副市長
2		宮澤 達	池田町	副町長
3		橋渡 勝也	安曇野市教育委員会	教育長
4		山崎 晃	池田町教育委員会	教育長
5	産業界	高橋 秀生	安曇野市商工会	会長
6		栗原 裕	J Aあづみ	総務開発事業部長
7		宮崎 鉄雄	池田町商工会	事務局長
8		傳刀 勇	J A大北	総合企画管理課長
9	学識経験者	◎宮崎 樹夫	信州大学教育学部	教授
10	地域	斉藤 岳雄	有限会社 斉藤農園	専務取締役
11		石井 克則	黒田精工株式会社	専務取締役・工場長
12		深澤 大輔	株式会社 大王（大王わさび農場）	代表取締役
13		宮島 克夫	松本地域振興局	局長
14		斎藤 政一郎	北アルプス地域振興局	局長
15	同窓会	笠井 明	南安曇農業高等学校同窓会	同窓会長
16		山崎 完好	穂高商業高等学校同窓会	同窓会長
17		宮澤 敏文	池田工業高等学校同窓会	同窓会長
18	P T A	岩渕 かつ子	南安曇農業高等学校 P T A	P T A 会長
19		小岩 未佳	穂高商業高等学校 P T A	P T A 会長
20		大出 敏弘	池田工業高等学校 P T A	P T A 会長
21		小松 公平	安曇野市 P T A 連合会	会長
22		宗川 尚美	大北 P T A 連合会	会長
23	小中学校等関係者	赤羽 文恵	安曇野市校長会（穂高東中学校長）	校長会長
24		中原 敏	北安曇校長会（美麻小中学校長）	校長会長
25		山岡 勝則	安曇養護学校	校長
26	再編対象校	忠地 凌空	南安曇農業高等学校	生徒会長
27		出水 和歌	南安曇農業高等学校	生徒会副会長
28		北原 邦俊	南安曇農業高等学校	校長
29		今溝 秀雄	南安曇農業高等学校	教職員
30		小沢 伸二	穂高商業高等学校	生徒会長
31		市東 花衣里	穂高商業高等学校	生徒会副会長
32		三宅 浩一	穂高商業高等学校	校長
33		川上 忠志	穂高商業高等学校	教職員
34		中山 蓮斗	池田工業高等学校	生徒会長
35		北澤 凌雅	池田工業高等学校	生徒会副会長
36		武居 正憲	池田工業高等学校	校長
37	岩原 昌孝	池田工業高等学校	教職員	

【事務局】

学校名	氏名（役職等）
南安曇農業高等学校	（教頭） 本山 義治
	（教諭） 上條 宏元、中田 貴子、矢野 良、山崎 健悟
穂高商業高等学校	（教頭） 橋本 徹
	（教諭） 浅見 大輔、有賀 詩織、川上 忠志、酒井 慎也
池田工業高等学校	（教頭） 山口 秀樹
	（教諭） 伊藤 満、犬飼 雅樹、岩原 昌孝、勝野 学

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	佐野 浩一郎	高校教育課 高校再編推進室	室長
	井出 敦	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	高橋 正俊	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	内山 みのり	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事

第3回 安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ (案)

日時	令和6年7月19日(金)午後5時30分から午後7時		
場所	安曇野市役所4階 大会議室		
出席 (敬称略)	中山 栄樹、宮澤 達、橋渡 勝也、山崎 晃、高橋 秀生、栗原 裕、宮崎 鉄雄、傳刀 勇、宮崎 樹夫、斉藤 岳雄、石井 克則、深澤 大輔、斎藤政一郎、笠井 明、山崎 完好、宮澤 敏文、岩渕かつ子、小岩 未佳、大出 敏弘、小松 公平、宗川 尚美、山岡 勝則、忠地 凌空、出水 和歌、北原 邦俊、今溝 秀雄、小沢 伸二、市東花衣里、三宅 浩一、川上 忠志、中山 蓮斗、北澤 凌雅、武居 正憲、岩原 昌孝 (以上34名)		
欠席 (敬称略)	宮島 克夫、赤羽 文恵、中原 敏 (以上3名)	傍聴	23名、報道2社
事務局	南安曇農業高校	本山教頭、加藤教諭、榛葉教諭、中田教諭、山崎教諭	
	穂高商業高校	橋本教頭、浅見教諭、有賀教諭、川上教諭、酒井教諭	
	池田工業高校	山口教頭、伊藤教諭、犬飼教諭、岩原教諭、勝野教諭	
	県教育委員会	佐野高校再編推進室長、井出主幹指導主事、高橋主任指導主事 内山主任指導主事、原(周)主任指導主事	
会議事項	(1) 第2回安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ (2) 各校の学校・学びの紹介 ・南安曇農業高等学校 ・穂高商業高等学校 ・池田工業高等学校 (3) 意見交換		
当日資料	・次第、開催要項、構成員名簿、第2回懇話会まとめ、第2回懇話会グループディスカッションまとめ・構成員アンケートまとめ、学びのイメージ参考資料(中野総合学科新校、須坂新校) ・学校紹介資料「各校の学校・学びの紹介」 ・会場配席図、アンケート用紙(両面)		

主な内容(・意見、質問等 →生徒 ⇒県教委)

冒頭において新構成員を司会から紹介

○会議事項

(1) 第2回安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ

ア 第2回安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめについて事務局から説明
質問、意見なし

イ 第3回安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会以降の流れについて事務局から説明
・「学びのイメージ」検討の手順について
・各校公開授業について

(2) 各校の学校・学びの紹介

ア 南安曇農業高校

- ・1年次は各科ごと共通履修、2年次より3学科各3コースより選択 各コースの活動内容報告
グリーンサイエンス科…フードコース、フラワーコース、フルーツコース
生物工学科…植物活用コース、動物活用コース、微生物活用コース
環境クリエイト科…設計エンジニアコース、施工テクニカルコース、環境クリエイトコース

・生徒会による全校生徒アンケートによると、「それぞれの学校の良いところを合わせて、よりよい学校にしてほしい」「お互いの学校の良さを活かしながら進化していけたら」「農業科でしか学べないような専門性を高める授業はどれも楽しい」「農業なら農業の良さを学べる学校でありつつ、3科が融合した新しい学校を作ってほしい」という意見が寄せられた。

【質問1】今、学んでいる学びにプラスして、他科の学んでみたい内容は何かあるか。

→農作物の販売にあたり、簿記などの商業の学習をしていければと考える。

【質問2】それぞれの学校で学んだことをベースにして、将来どのような夢を抱いているのか。

→フードコースで学んでいるが、卒業後、栄養士の専門学校進学を希望している。

→動物活用コースで学んでおり、元々は小動物を相手にしたいと考えていたが、将来は牧場関連の仕事に就きたいと考えている。

イ 穂高商業高校

- ・1年次は共通履修、2年次よりコース選択となり2学科2コースより選択 各コースの活動内容報告
商業科…会計・ビジネス探究コース、地域・ビジネス探究コース
情報マネジメント科…デジタル・ビジネス探究コース

- ・統合により、将来の視野が広がり選択肢が増え、それぞれの領域を味わいながら十分な学習ができると感じた。しかし、各学校が長年培ってきたオリジナルの特色がなくなってしまうことや、学校を取り巻く地域に活気がなくなってしまう可能性があることが課題であると考えられる。
- ・新校では伝統の先にある新しい学びを取り入れることによって、後輩にとって良い学校になると思う。

【質問1】今、学んでいる学びにプラスして、他科の学んでみたい内容は何かあるか。

→これからの社会は、商業だけではやっていけるような社会ではないと考える。商業、工業、農業がどのように関わっていくかが大事であり、それを学ぶことにより、自分のやりたいことに活かせるのではないかと。

【質問2】それぞれの学校で学んだことをベースにして、将来どのような夢を抱いているのか。

→あまり考えたことはないが、経営者になりたいと考えている。商業だけの勉強では難しいため、工業や農業がどのように関わっていくかは勉強になると思う。

ウ 池田工業高校

- ・くくり募集で入学。1年次の前半に3つの専門科の実習をローテーションで体験し、その後、希望により各科に分かれて学習する。

機械・電気学科	<ul style="list-style-type: none"> ┌ 機械専攻 └ 電気情報専攻…電気コース、情報コース
建築学科	

- ・現在、生徒数減少により、各学年で2クラスとなっており、生徒会行事やクラブ活動などで寂しく感じる面が多々ある。3校が統合することにより、それぞれの活動が活発になるのではないかと。

【質問1】今、学んでいる学びにプラスして、他科の学んでみたい内容は何かあるか。

→工業と農業と商業3つは社会のライフラインの主となることができると考えられるため、3校の統合は良い方向になるのではと思っています。

【質問2】それぞれの学校で学んだことをベースにして、将来どのような夢を抱いているのか。

→現在、学習していることとは関係のない方向に進もうと考えている。

(3) 意見交換

- ・1期再編で総合技術高校がいくつか県内に設置されたが、教員の多くは総合技術高校に対して素晴らしい学校になるという思いを持っていない状況である。1期再編の現状と課題をもう一度確認し、安曇野独自の構想を考えてもらいたい。
⇒1期再編の総合技術高校では融合した学びを試行錯誤しながら取り組んでいるが、課題や方向性が出ているため、安曇野総合技術新校として、そこを出発点としたい。
- ・県内で単独の農業高校がなくなってしまうという心配がある。
⇒農業高校の単独というところは、懇話会での議論の中身として取り扱う内容ではない。今後の人口減少の状況を考えたときに、現在、2期再編では計画に入っていない学校が、今後も再編対象にならないとは言えない。
- ・3校統合で、その地域から学校がなくなった際に、地域や同窓会の方々からどう思われるかという懸念がある。
- ・地域を担う人材作りには農業高校が必要であるとこれまでも伝えてきた。国や自治体で人口減少対策はしているが、統合は少子化に対して行っているものなのか。教育は費用対効果という考えではなく、生徒の立場になって考えるべきである。

○座長まとめ

- ・9月以降、3校で公開授業が行われ、お互いに学校の様子を見る機会がある。お互い共通理解し合う良い機会となるため、実際に他校がどのような活動をしているか見ていただきたい。
- ・次回はそれを踏まえて皆様からご意見をいただき、理解を深める時間としていきたい。

※次回の懇話会では、10年後の産業のあり方などを見据えた「これからの高校に求める学校像や生徒像」について、産業界や地域の代表としてご参加いただいている構成員の方々にご意見を伺いたいという提案が座長からあり、同意が得られた。

その他

(1) 公開授業日程

- ・9月30日(月) 午前 南安曇農業高校
- ・10月10日(木) 午前 穂高商業高校
- ・10月22日(火) 午前 池田工業高校

(2) 次回の日程

- ・日時 令和6年10月頃(予定)
- ・会場 (調整中)
- ・内容 (未定)

第3回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会 構成員アンケートまとめ

【学校・学びの紹介をふまえた、新校で育てたい生徒、新校の学校像などについて】

<生徒主体>

- ・どんな学びができるのか生徒に示しながら、それにとどまらず生徒自身が自ら学んでみたいことにチャレンジできる学校でありたい。
- ・各校の特徴、良さを組み込んでの新校設置が必要であるが、発想を変え全く新たな学校を作る必要性を感じている。各校のしがらみにとらわれることなく、生徒が大いに成長すべき高校造りを切に望む。
- ・3校それぞれの良い所(特化した所)をなくすことなく、楽しいカリキュラムを考え、生徒のみんなが自ら学びたいと思える活気のある総合的な学校が理想。

<専門性>

- ・各校とも特色があり、無くせない分野も多数あって3校を統合して今まで通りやっていくのは先生側や生徒側も従来通りの教育ができるか心配です。新校は総合高校にこだわらず、専門職業高校として存続したほうがよいかと思います。農業高校関係者のお話を聞いて、農業県でもある長野県に農業高校がなくなるのは将来の長野県農業が不安になります。農業の担い手問題は大きな課題でもあり、第4期長野県食と農業農村振興計画の基本目標に「人と地域が育む 未来につづく 信州の農業・農村と食」となっています。出来れば県内に将来の長野県農業を担う人材育成の教育の場を高校の段階から必要かと思えます。これからの農業は昔と違い、デジタルツールの活用、スマート農業に必要な機械・機材、農業経営者に必要な経営感覚の習得など農業分野だけではなく、工業、商業の分野の知識、技術も必要となってきます。長野県の中心、田園都市でもある安曇野に新しい農業経営者、担い手の育成の場である高校（高専？）として特色のある学校になればと思っています。
- ・各学校ともに、必要な技術を持っているのでこのままスライドすべきだと思いました。

<専門性+融合>

- ・各高校ともに歴史だけでなく、色々な特色があって、それぞれを活かして残していけるような形ができれば理想的なのかなと感じました。総合技術であれば3年間の限られた時間なので、農業、商業、工業とより特化した学科で募集すべきだと思います（なお、英会話、一般的情報処理は必要と思います）。ただ、せっかく同じ学校なので、専門外で部活での交流は当然として、あまり個人的にも勧めないですが、学科・学年関係なく、ゼミに所属してゼミ単位で1つのことをやるのも良いかなと。例えばあまり負担のない様に文化祭での出店などはどうかと（農産物、6次産業、店作り）。単に思い付きですが、交流の機会も必要と感じました。
- ・農業・工業・商業の魅力を、地元高校生が発見し6次産業につなげる。これこそが新校の魅力につながり、安曇野の風景・景観を守り、一人でも多くの生徒さんが食と農業の魅力を子どもや若い世代の方に発信して頂けたら幸いです。安曇野の大自然を農のテーマパークとして活用し、安曇野の力になる。農業・工業・商業の総合的に学び生かし活用し、生徒自ら楽しみ学ぶことこそ、安曇野や地域を守り、地球を救う持続可能な開発目標（SDGs）の学びにつなげてほしい。安曇野の自然を未来の子や孫にそっと渡したいと思っています。

<学び>

- ・学校・学びの紹介をお聞きし、各校の生徒は、それぞれの学校に誇りを持ち、学びを大切にしていることから、新校に誇りを持ち、学びを大切にしたい生徒・学校像を目指すことが必要であると思いました。
- ・検定を多く取れる学校にするべき。
- ・地元の高校に非常に重要な役割がある。農業高校が地方創生のプレーヤーになることを見据え施策を検討していく。高等学校段階で地域を知り、愛着を持つ機会を創出することが重要で地域課題の解決策を通じた探究的な学びができるのは(しているのは)南農しかないと思います。
- ・学校内での検討を進める中で考えたい。

<人材育成>

- ・専門分野に特化した方針は分かりますが、同時にいずれ社会に入ってくるにあたり、社会人とはどのようなものか、姿勢、行動等の教養にも力を入れた学校にして頂きたいと思います。
- ・農・工・商が一緒になるので、未来に必要な人材を育てて欲しいです。
- ・3校共に歴史のある高校で、今に始まった事ではなく「学校の魅力作り」に努力してきた学校だという事が良く分かった。生徒も学校に誇りを持っているので、これまでの各校での教育方針は正しかったのだと思う。各校共に「探究学習」に力を注いでいますが、いくつになっても好奇心を持ちコミュニケーション能力の高い生徒。専門性は会社で引き続き教育していくので、基礎を教えこんで欲しい。長い歴史を持った3校の統合になるのですが、次の100年を見据えて英断しないといけないと思います。ただし、歴史もただ捨て去るのではなく何等かの形で残せないか?例えば、分校を現在の跡地に残すとか、グラウンドを残すとか、地域の要望に応える形で。農業高校存続の意見が強かったように感じますが、県立高校の枠を無くして私立高校としてなら存続可能なのではないかと思います。そういう Option を提示したら?たぶん、補助金が欲しいとか言ってくるように思います。ただ、反対しているように聞こえて仕方ありませんでした。

<校地関係>

- ・3校とも大きな特徴として、地域と密接に関わりを持ちながら、学校も地域もともに成長してきたことが挙げられる。それぞれの学校が立地する地域から仮に学校がなくなることは、計り知れない損失であることは明らかであることから、新校をどこか1カ所に集約するのか、現在のキャンパスを活用するのかなどが、今後新校の学校像を語る上では欠かせなくなっている段階のように思われるがいかがか。

⇒活用する校地・校舎については、新校の学びのイメージが明確になったところで議論していく予定です。

【その他のご意見、今後の進め方などについて】

- ・どんな新校を創り上げていくのかという視点で協議を深めたい。
- ・3校の生徒会役員等を集め、生徒だけの懇話会を開催し、その様子を別会場で見守り、意見を記載するよう試みてはいかがでしょうか。そして今の方式では、発言の強い良い方のみが発言し、発言しづらく黙っている方が多く感じられます。

- ・3校統合による再編が前提として参加しましたが、単独での存続の意見も聞こえてきて、現状はどういった状態なのかと思いました。考えを同じにすると、全員が統合と考えていないということでしょうか。個人的には少子化であって維持経費等から統合が賢明と考えます。また、あの雰囲気発言するのはハードルが高いかなと思いました（あまり変なことを言ってもいけない感じを受けました）。
- ・地元産業界の意見や、今まで統合してきた高校の現状の課題や改善をどのように考えているか、また統合しての感想を聞いてみたい。（教員や生徒）
- ・とりあえずは今の進め方で良いと思います。
- ・懇話会になっていない。スケジュールどおりやろうとする座長の進行ではいけない。意見をくみとる様にし、懇話会の目的を果たしていただきたい。時間で意見を、会を閉めるのは止めていただきたい。
- ・各学校のプラン作成時期の提示が欲しい。
- ・生徒、保護者、先生はもちろん、地域にとっても学校は大きな存在。地域の方々の意見も広く取り入れる必要があると思います。とはいえ、第一に考えるべきは将来を担う生徒のみんなが楽しく実のある学びができる学校にする！という共通認識が大切だと思います。
- ・この地に、生徒が自ら学びたいと思える新校の設置の為、多くの意見を出し合う場となって欲しい。
- ・結論はいつでいいのか？どんな形（規模縮小）でも今あるところに残してほしい。
⇒他の新校の様子ですと、再編実施基本計画策定までに10回から20回ほど懇話会を開催しています。校地の跡地利用については、懇話会では意見交換は行わず、地域にご意見を伺いながら知事部局が主体となり一緒に考えていくことになっています。
- ・キャンパスの位置等についての検討方法、日程について構想をお聞きしたい。
⇒活用する校地・校舎については、新校の学びのイメージが明確になったところで議論していく予定です。
- ・最後はどのようにまとめるつもりなののでしょうか？南農同窓会長や学生達のような意見の違う人を一同に集めて形を作っているだけに思えました。最後まで意見は平行線になるように思いますし、高校生も言いたいことが言えなくなるように思います。意見は一人2分までとか決まりが必要。または事前に申告しておくか。
- ・新校にする事を前提に進めているとは思いますが毎回、そのまま残す話、先生方に納得しない人もいます。新校にする為にどうするのかを議論しないといけないのでは？と思いました。
⇒本懇話会は、新校の再編実施計画（3校を再編してどのような学校にしていくか）を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くことを目的としています。新校のあり方について活発に意見交換していただけるように努めていきます。

安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会

会長 宮崎 樹夫 様

公開質問状

北農・池工同窓会

再編に当たっては、10年後20年後大きく減少する高校生を想定して「魅力があり、生徒がその高校で学びたいような高校を創る。」ことがより大切です。

そのためには、普通高校とは異なり、地域企業を含め就職者が多い職業高校の特質を共有し理解し合い、係る人たちや地域住民が納得する再編実施計画にすべきと考えます。

今年1月15日に開催された第1回当懇話会で県教育委員会再編室長のあいさつでは、「一年をかけ、学びの内容、新校舎、校名など再編実施内容について十分な議論をお願いしたい。」とのことでした。

池田工業高校同窓会では、高校と連携して「地域とともに歩む高校を目指し、ものづくり企業の人財育成の要請をいかに教育現場で生かすか。」と高校教員、地域行政、商工団体、中学校校長からなる魅力づくりのための検討委員会を開催し、ディアルシステムやくくり募集など実現してきました。

地球的規模でのAI社会の到来で大きく変わるものづくり現場です。就職者が多く社会と深く連携する職業高校に求められるものを分析し、大きく変化する持続可能な社会に即した高校再編に向けての実施計画の議論を要望します。

質問内容

- 1、当同窓会では懇話会ごとに理事会等を開催し、懇話会の検討課題の共有化と当同窓会としての意見の集約をしていますが、懇話会が設置されて、半年以上経過しますが、個々の議論が進んでいない。県を代表する当地域の産業を担う人材を多く輩出してきた南安曇農業高校、穂高商業高校、池田工業高校の貢献度の高さを認識し合い、職業高校の出口問題である企業者の発言を配慮すべきです。初の通学区を越えた高校統廃合です。今後どのように進めようとしているのか。
- 2、学科と授業内容への検討はいつから入り、どのくらいの時間をかけて実施計画を創っていくのか。
- 3、第2回懇話会の先進事例を紹介された鳴門教育大学の藤村裕一特命教授からは、地域の実情により、キャンパス化した複数の校舎の事例まで言及されたが、新高校の校舎についてどの段階で議論するのか。
- 4、開催日時が間延びしているが、スピードアップして毎年変わる生徒やPTA等の委員の立場を理解し、一年間で終了する当初通りに進める努力をすべきである。

北農・池工同窓会長 様

長野県教育委員会事務局
高校教育課高校再編推進室長

安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会に関する公開質問状への回答について

令和 6 年 7 月 19 日開催の第 3 回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会で提出された公開質問状について、次のとおり回答します。

記

1、当同窓会では懇話会ごとに理事会等を開催し、懇話会の検討課題の共有化と当同窓会としての意見の集約をしています。懇話会が設置されて、半年以上経過しますが、個々の議論が進んでいない。県を代表する当地域の産業を担う人材を多く輩出してきた南安曇農業高校、穂高商業高校、池田工業高校の貢献度の高さを認識し合い、職業高校の出口問題である企業者の発言を配慮すべきです。初の通学区を越えた高校統廃合です。今後どのように進めようとしているのか。

（回答）

懇話会の進め方について、高校再編推進室として、まずは構成員の皆様には「学びのイメージ」を検討する上での共通理解を深めていただくことが重要であると考えております。その上で、「目指す学校像や育てたい生徒像」について意見交換をしていきます。そして、特色あるカリキュラムなどの「新しい学校の中身」、設置学科や施設などの「新しい学校の形」と、ひとつずつ手順を踏んで、より具体的に形を作っていく、新校の学びのイメージを完成させたいと考えております。

共通理解という観点では、これまでの懇話会において、第 1 回では懇話会の趣旨説明、第 2 回では有識者による全国の先行事例の紹介、第 3 回では生徒による 3 校の学校・学びの紹介をしてまいりました。そして、各校へのご理解を深めていただくため、第 4 回開催の前に構成員の方々には可能な限り、公開授業に合わせて各校を訪れて、実際に生徒が学ぶ姿に触れていただく予定です。

また、第 3 回に、座長から「産業界や地域から選出されている構成員から、企業などが求める学校での学びについて次回ご意見を伺う」旨の提案を受けており、第 4 回ではご意見がいただけるよう、事務局で準備しております。

2、学科と授業内容への検討はいつから入り、どのくらいの時間をかけて実施計画を創っていくのか。

(回答)

構成員の皆様にご共通理解を深めていただいたのち、「目指す学校像」「育てたい生徒像」を先に作り上げていきます。その後、「新しい学校の中身」として「特色あるカリキュラム」や「学びの融合」、「学校の魅力づくり」などについて意見交換をしながら学びのイメージを具体的にしていこうと予定しています。

グループワークなどを取り入れ、多くの意見をいただきながら具体的に検討してまいりたいと考えております。

なお、他の懇話会の例ですと、再編実施基本計画案策定までに十数回、懇話会を開催しております。

3、第2回懇話会の先進事例を紹介された鳴門教育大学の藤村裕一特命教授からは、地域の実情により、キャンパス化した複数の校舎の事例まで言及されたが、新高校の校舎についてどの段階で議論するのか。

(回答)

新校で活用する校地、校舎に関しては、「新しい学校の中身」を検討して学びのイメージが具体的に変わったところで、その学びに相応しい校地、校舎について皆様のご意見を伺いながら進めていく予定です。

4、開催日時が間延びしているが、スピードアップして毎年変わる生徒や PTA 等の委員の立場を理解し、一年間で終了する当初通りに進める努力をすべきである。

(回答)

他地区の懇話会を含めて、構成員の皆様の中には、所属の代表として出席いただいている方々がおります。生徒代表や PTA 代表などは1年間で交代する方もおりますが、懇話会の内容や意見交換の様子等を引き継いでいただきながら参加いただいております。懇話会の開催については、スピード感を持って進めてまいりますが、地域の皆様や子供たちの期待に応える新校となるように、1年間という期間にこだわらず、構成員から多様なご意見をいただきながら懇話会を進めてまいりたいと考えております。

第4回安曇野総合新校（仮称）再編整備計画懇話会「公開授業報告」

[校名] 南安曇農業高校

[日時] 9月30日(月) 10:05～11:55（2時限目）

[公開授業と主な内容]

全ての授業を自由に見学いただけるよう計画。

主に3年生では専門コース別の「課題研究」や「総合実習」での研究活動や作品制作、資格取得等の様子を見学。併せて施設設備も見学。

1年生・2年生では、普通科目を中心とするクラス別授業を見学。

【3年生】

◎グリーンサイエンス科

科目「課題研究」：フードコースでは、安曇野市との連携事業「安曇野オリジナル商品開発プロジェクト」による新商品の開発づくり。また、フルーツコースでは生徒が育てたブドウを並べ、栽培の様子や品種の特徴等をわかりやすく解説。フラワーコースでは草花の利活用の一環としてボトルフラワーの制作。

◎生物工学科

科目「課題研究」：微生物活用コースでは、イネを用いた活性汚泥の肥料化の研究の紹介。植物活用コースでは植物工場の見学やバイオ技術を使った研究の紹介。動物活用コースでは家畜の飼養衛生管理（農場HACCAP等）の学習。

◎環境クリエイト科

科目「総合実習」：造園デザインコースでは南農祭に向けた室内洋風庭園づくり。設計エンジニア・施工テクニカルコースでは10月下旬に行われる2級土木施工管理試験に向けた資格取得の学習。

[各校の教育の特長]

本校は、1年次に「総合実習」や「農業と環境」でコース授業体験やコース説明会を通して、2年次からの専門コースを選択し、専門科目の学習を深化させていきます。

3年生では、生徒全員が「課題研究」に取り組みます。本校では「課題研究」を「卒業論文研究」と呼び、大学の卒論と似たような位置づけと捉えています。「課題研究」はコース学習の学びを活かして、発展的な研究テーマを設定していきます。また、研究を進めるにあたり、課題の設定 → 計画の立案 → 実施 → 評価・反省 → 報告書の作成 → 成果の発表、といったこれら一連の学習を生徒一人または数人のグループ単位で行い、少人数制で高い専門の教員から指導を受けながら実践的かつ探究的に学ぶことで生徒の総合的な力を高めていける教育システムとなっています。



課題研究：グリーンサイエンス科



課題研究：生物工学科



総合実習：環境クリエイト科

公開授業報告

〔校名〕 穂高商業高校

〔日時〕 10月10日(木) 第2時限 10時30分～11時20分を公開

〔公開授業と主な内容〕

- 1年 ビジネス基礎2クラス・英語コミュニケーションⅠ（クラス別授業）
- 2年 原価計算・プログラミング（コース別授業）※
- 3年 体育・論理国語・英語コミュニケーションⅢ（クラス別授業）

※本校は、1年次に商業の基礎を学び、2年生から3コースから専門分野を選択します。

①会計・ビジネス探究コース ②地域・ビジネス探究コース ③デジタル・ビジネス探究コース

〔各校の教育の特長〕

「ビジネスを探究する学校」の授業実践として次の内容を実施

- 1年次 ケースメソッド・商業基礎科目（基礎）
- 2年次 ビジネス探究・専門科目（応用）
- 3年次 高大連携・専門科目・地域人教育（発展・実践）

◎ケースメソッド（公開授業で実施）

様々な出来事（ケース）を自分ごととして捉え、解決に向けて調査、思考、話し合いを重ねることを通して学習を深め、視野を広げることを目指しています。生徒が導き出した答えに「間違い」はありません。教職員は、生徒ひとりひとりが思考を続け、自分で考えることを大切にできるようサポートしていきます。

◎地域人教育 HOTAKA

地域を歩き、地域の人たちとかかわり、地域の課題を見つけ、みつめる取り組み、探究的な活動を行っています。地域は自分たちの未来をかたちにする場と考え、コミュニケーションやコラボレーションを図りながら「人と一緒に創る力」「隣人と生きる力」「コトを企（起）こす力」を身につけます。

◎第1回穂商フェア

昨年度までの「穂商マーケット」をリニューアルし、10月26日（土）初実施。探究的な学びの学習イベントとして開催。日頃の学びの発表、実践、検証、調査の場として位置づけ、これまでの販売実習に加え、活動の発表や体験型ワークショップ、ポスターセッション、子ども向けイベント、その他調査報告などを行いました。



公開授業報告

日 時 2024(R6)/10/22 (火) 一般公開は9:00~11:50 懇話会メンバーは10:00~10:50

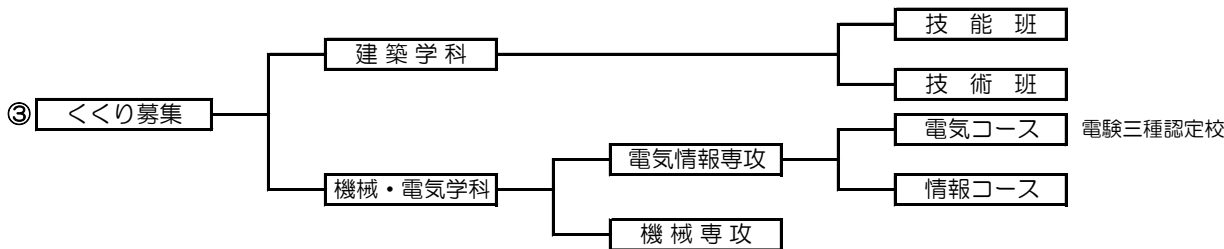
主な見学授業 2年生の実習(1・3年生は普通教科の座学) 見学者数 86名(内16名は懇話会メンバー)

工業高校は実習の時間が多く(課題研究を含め3年間で16単位)今回の公開授業では2学年全学科の実習を中心に見学していただきました。下表は2年生で行う実習のテーマです。今回公開した実習テーマ◎となります。3年間ではこの約3倍のテーマ数の実習をし、その都度、結果報告書(レポート)を提出し、座学での知識に加え、体を動かしての実習により技術力を身に付けます。

年間実習テーマ	実 習 内 容
建築学科	
軸組模型	ひのき材を使用し、倉庫の軸組を1/20で製作
エスキス	木造二階建て住宅の平面・立面・断面の構想図
CAD	エスキスで考えた図をJWCADで図面化する
◎ 測 量	水盛・やり方の仮設を行い、水準測量・角測量を学ぶ
スチレン模型	スチレンボードを使用し、平屋建住宅を1/100で製作
木材加工	刃物の砥ぎ方と道具の使い方を中心に学ぶ
機械・電気学科	
機械専攻	
◎ マシニングセンター	基礎知識、操作方法、ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞの基本、ﾈｰﾌﾟﾚｰﾄ製作
◎ 旋 盤	構造、機能、外周切削、端面切削、溝切加工
◎ 材料試験	各種の試験機の操作方法、熱処理の目的と作業方法
◎ 溶 接	基礎知識、アーク溶接、炭酸ガスアーク溶接
フライス盤	フライス盤の構造、機能、切削条件、各種フライス盤加工
機械・電気学科	
電気情報専攻	
電子部品の特性	抵抗、ﾄﾗﾝｼﾞｽﾀ、ﾀﾞｲｵｰﾄﾞ、LED、ｺﾝﾃﾞﾝｻ、ｲﾝﾀﾞｸﾀﾝｽ、CdS等
◎ 交流回路基礎	RLC回路の特性、電力、共振等各種測定とデータ整理
整流回路とﾓｰﾀｰ	交流の波形測定、半波整流、全波整流、周波数、周期測定
Excel II	表計算、グラフ化、実習等のデータ処理、統計等
PowerPoint/word	プレゼンテーション資料
C言語ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ	C言語でﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを作り、パソコン画面上に結果を表示させる
電気工事II	国家資格の第二種電気工事士の技能試験の合格を目指す
◎ 電気工事III	国家資格の第二種電気工事士の技能試験の合格を目指す
マイコン制御I	自作のマイコンを使用したIoT技術の活用
◎ マイコン制御II	自作のマイコンを使用したIoT技術の活用

池田工業高等学校の特徴

- ① 中信地区唯一の建築学科設置校です。
- ② 安曇野市、大北地区唯一の定時制(普通科)があります。



- ④ 池工版デュアルシステム……毎週金曜日13:00頃~16:30頃まで、各企業に出向き実施しています。

受け入れ企業・団体名と参加生徒数(順不同・敬称略)

赤田工業株式会社 ③	株式会社レチトン ②	小口精工株式会社 ②	大北農業協同組合 ②	黒田精工株式会社 長野工場 ③
株式会社つばくろ電機 ②	大雪渓酒造株式会社 ②	池田町社会福祉協議会 ③	株式会社荻窪金型製作所 ④	
株式会社近藤紡績所 大町工場 ①	ニチコン大野株式会社 長野工場 ②	ニチコン製箔株式会社 大町工場 ③		
富士電機パワーセミコンダクタ株式会社 大町工場 ③	以上13企業・団体に32名が研修をしています			

- ⑤ 実習は勿論ですが、座学においても少人数で授業を行っています。普通科目と工業科目との比率は約6：4となっています。
- ⑥ 全校生徒がカウンセリングを受け、高校生活の一助としています。
- ⑦ どの学科も、挑戦できる資格がとて多く、たくさんの生徒が挑戦し、合格しています。

第4回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会

学びのイメージ 検討手順

